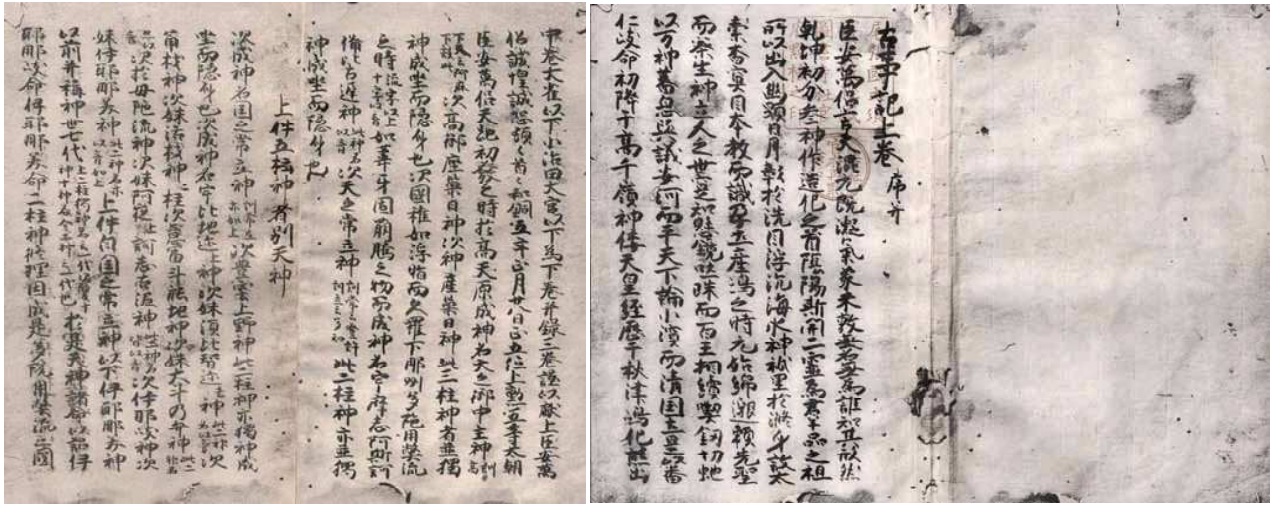


天草方言で読む【古事記】

鶴田 功〈訳文〉

我が国における現存最古の典籍。和銅5年（712） 帝紀 ひだのあれい 碑田阿礼



〔国宝真福寺本古事記〕

古事記 〈原文〉

天地初發之時。於高天原成神名。天之御中主神【訓高下天云阿麻下此】次高御産巢日神。次神産巢日神。此三柱神者。並獨神成坐而。隱身也。次國稚如浮脂而。久羅下那洲多陀用幣琉之時【琉字以上十字以音】如葦牙因萌騰之物而。成神名。宇摩志阿斯訶備比古遲神【此神名以音】次天之常立神【訓常云登許訓立云多知】此二柱神亦獨神成坐而。隱身也。

於是二柱神議云。今吾所生之子不良。猶宜白天神之御所。即共參上。請天神之命。爾天神之命以。布斗麻迺爾【上。此五字以音】卜相而詔之。因女先言而不良。亦還降改言。故爾反降。更往迴其天之御柱如先。於是伊邪那岐命。先言阿那迺夜志愛袁登賣袁。後妹伊邪那美命言。阿那迺夜志愛袁登古袁。

如此言竟而。御合。生子淡道之穗之狹別嶋【訓別云和氣下效此】次生伊豫之二名嶋。此嶋者身一而有面四。每面有名。故伊豫國謂愛(上)比賣【此二字以音下效此】讚岐國謂飯依比古。粟國謂大宜都比賣【此四字以音】土左國謂建依別。次生隱伎之三子嶋。亦名天之忍許呂別【許呂二字以音】次生筑紫嶋。此嶋亦身一而有面四。每面有名。故筑紫國謂白日別。豐國謂豐日別。肥國謂建日向日豐久土比泥別。【自久至泥以音】熊曾國謂建日別【曾字以音】次生伊岐嶋。

亦名謂天比登都柱【自比至都以音訓天如云】次生津嶋。亦名謂天之狹手依比賣。次生佐度嶋。次生大倭豐秋津嶋。亦名謂天御虚空豐秋津根別。故因此八嶋先所生。謂大八嶋國。然後還坐之時。生吉備兒嶋。亦名謂建日方別。次生小豆嶋。亦名謂大野手(上)比賣。次生大嶋。亦名謂大多麻(上)流別【自多至流以音】次生女嶋。亦

名謂天一根【訓天如天】次生知訶嶋。亦名謂天之忍男。次生兩兒嶋。亦名謂天兩屋。【自吉備兒嶋至天兩屋嶋并六嶋】

〈意訳〉

天と地が初めて別々になった時、高天原に天之御中主の神、高御産巢日の神、神産巢日の神ちゅう、造化の三神が現れなされた。

それから、国土がまだ形もなんも無うして、海月ンごて漂うとつ時、芦の芽の萌え出るごて、宇摩志阿斯訶備比古遲の神と天之常立の二神が現れなされた。

イザナギとイザナミの二神は、「この漂うとる国土を作り固めろ」ちゅう、天神の使命を帯びとらすもんじゃって、天の浮橋に立って、矛で海水バ攪き廻やーて引き揚げらしたりゃ、矛の先から瀧まり落つる海水が、積り積もってひとりでに、島にきゃーひなされた。こりが、オノゴロ島たい。

二神は、その島に天下って、大か家バ建てて住ますこてならしたばって、男と女御の体ン違いにお気付きなされた。

そって、柱を回りながら、「結婚して、国をば生もうじゃなかか」ちゅうこてなって、女神が先に「ほんに、あなたはよか男じゃらすネ」ちゅうわした。後から男神も「ほんに、お前はよか女御じゃネ」ちゅうて、初めて二人が激しく合体しなされた。ところが、生まれた子は、水蛭子と淡島で、どっちも不愚じゃんなした。

二神は、その訳バ天神に訊ねらしたりゃ、「女子が先にもの言うたけん、そがん不吉な子の生まるつとじゃ」ちゅうて、教え諭なされた。

こんだ、男神が先に「ほんに、お前はよか女子じゃネ」て言わした後で、女神が「ほんにあなたはよか男じゃらすネ」ち、言い直わやーて合体さしたりゃ、淡道の穂の狭別の島（淡路島）、伊予の二名の島（四国）、隠岐の三子の島（九州本島）、伊伎の島（吉岐の島）、津島（対馬）、佐度の島（佐渡が島）、大倭豊秋津島（畿内）の八島を、次から次にお生みなされた。

だけん、我が国のことば、「大八島国」て、言うど。

そんな次、吉備の児島（岡山県 児島半島）、小豆の児島（香川県 小豆島）、大島（山口県 大島）、女島（大分県 姫島）、知訶の島（長崎県 五島列島）、**両児の島**または、**天両屋**（熊本県天草島：異説には長崎県の男女群島）、てろん六島バ、お生ちなされた。これらの島々は、瀬戸内海とか東支那海でにゃ、交通の要衝でもある。

こがんで、全部国バ生み終えて、更に海、河、山、野、風てろん色々な神々を生ましたばって、最後に火之神バ生ましたもんじゃって、女神は陰部バ大火傷して病臥なさり、とうと、死の国に旅立ちなされた。

妻バ亡くした男神は、嘆き悲しゅうで、妻を慕い、後追うて黄泉の国に行たて「もう一度、現世に還って呉れネ」ち、頼ましたりゃ、女神は「私は、すでに死の国の食物バ口にしたけん、現世にゃ還れんばって、せっかくあなたがお出でになつたもね、還ってよかかどうか、この国の神に掛け合うてみまっしゅう。言うどくばって、その間、決して私バ見てにゃなりませんバイ」ちゅうて、家ン中に引っ込うでしまわした。

待てど暮らせど出て来なっせんもんだけん、男神は待ちきらでにゃ、髪に刺した櫛ン齒ば一本折って、それに火バ灯して、奥に入ってみたりゃ、女神の体にゃ、蛆がうようよ集って、頭・胸・腹・陰部・両手両足にも八つの雷神が住み着いとつた。

イザナギの命は、そりば見て、恐じけて逃帰ろうてさしたりゃ、イザナミの命は、「私に恥バおかせになりましたネ」ちゅて、黄泉の国の醜女を使わして、夫の後バ追わせなさった。

男神は、とっさに頭に巻いとった葛バ取って、投げつけなしたりゃそりから葡萄の実がなった。

醜女が、そりば拾うて食べよる間に、逃げ延びなさったばって、食い終わったりゃ、また、じき後バ追うてきた。

今度は櫛バ投げつけたりゃ、そりが筍になった。醜女がそりば抜いて食べよる間に、よようして逃げのびた。

ところが今度は、あの恐ろしか八つの雷神に千五百の黄泉の軍兵どんバ率いて、夫の後バ追わせらした。

男神は、長剣バ抜いて、後ろ手に振りかざしながら逃げたばって、とうと、現世と黄泉の国との境にあるヨモツヒウの坂の坂本まで来てしもた。

そんな時、男神はそんな坂本にある桃の実バ三ツ取って、敵に投げつけらしたりゃ、不思議なことに雷神も黄泉の国の軍兵も、うろたえまくって、みんな逃げ帰ってしもた。

ところが、最後にゃ、妻のイザナミの命自身が追いかけてきた。そこで、男神は千引きの岩バ引き寄せて、ヨモツヒウ坂バ塞やで、その岩バ挟うて向かい合うて、永久の離婚バ宣言さした。

女神は、「愛しいわが背の君よ、あなたがそがん仕打ちをなさっとなろ、あなたの国の人を一日千人絞殺しますバイ」ちゅわした。

ずっと男神は「そんなら、私は一日に千五百人生ませて見する」て、言い返やさした。

だけん、人は一日千人死に、千五百人生まるっとちゅた。

黄泉の国から還って来らしたイザナギの命は、死の国の汚れバ祓うために、筑紫の日向の橘の小門のアワキ原に行たて、禊バ、しなさった。

まず、身に付けとったもんば次々脱ぎ捨てらしたりゃ、神々が化生した。そりから、海に潜って身を清めらしたところが、また神々が化生した。

最後に左の目バ洗うたりゃ、天照大御神が、右の目バ洗うたりゃ、ツクヨミの命が、鼻バ洗うたりゃ、スサノオの命がそれぞれ化生さした。

イザナギの大神はえらい喜かうで、天照大御神には首飾りの玉バ授けて〈高天が原〉の統治を、ツクヨミの命には、〈夜の国〉の統治を、スサノオの命には、〈海原〉の統治を、それぞれにお任せなさった。

ところが、スサノオの命は、宛てがわれた海原バ治めでにゃ、亡き母の国である根の堅州国に行きたかちゅて、子どもがごて泣き喚かした。

イザナギは、あくしゃうって追放してしまわした。スサノオは天照大御神にお別れの挨拶をするため高天原に上って行かした。ところが、その勢いが凄まじく、山川はことごとく鳴り轟き、大地はひっくりかえるごて大揺れに揺れた。

天照大御神は、そのありさまにきっ魂がって「スサノオは高天原を奪い取るために昇天して来っとに違わん」ちゅうて、男装して弓矢を携えながら、雄叫びをあげ「どい、

上って来たか」と詰問した。

スサノオは、「亡き母の国に行くため、お別れに来やした。反逆心などありません」と言うと、「お前の忠誠は何で証明するか」と聞かした。すると、スサノオは「お互いに誓約して、子どもを生むことで証しバ立てまっしゅだ」て、返答さした。

そこで、天照大御神とスサノオの命はアメノヤスの河バ挟んで、誓約を結びなさった。

まず、天照大御神がスサノオの剣バ貰うて、三段に打ち折り、そりばガリガリ噛うで吹き捨てらしたりゃ、そん息吹の狭霧で宗像の三女神が現れらした。

次に、スサノオの命が、天照大御神から玉バ貰うて、ガリガリ噛うで、吹き捨てらしたりゃ、そん息吹の狭霧でアメノオシホミの命、アメノホヒの命、アマツヒコネの命、イクツヒコネの命、クマノクスビの命の、五柱の男神が現れなさった。

大御神は、「後に生まれた五男は、私の持ち物から生まれたけん私の子、先に生まれた三女は、お前の持ち物から生まれたけん、お前の子ばい」と宣言なさった。

スサノオは「私の心が忠誠だったけん女の子が生まれた。私が誓約に勝った」ちゅうて、大御神の田ん畦バうっ壊したり、溝バ埋めたり、大嘗祭の神殿に糞ば垂れ散らきゃーての暴行、はては、神に奉る衣バ織る清浄な機屋にも斑馬の皮バ逆剥ぎにして投げ込むだ。機織女は、ひっ魂げて頓死してしもうた。

さすがの天照大御神も、こりを見かねて天の岩屋の戸バ開けて、そん中に籠ってしまわれた。そのため、高天原も地上もすべて真っ暗闇の世界になり、色んな災いごとがあちこちで一時に起こってしもた。同時多発災難たいね。

こっじゃいかんと、大勢の神々がアメノヤスの河原に集まって、天照大御神バ岩屋から連れ出す方策バ凝議なさった。オモイカネの神の提言で、先ず、鶏バ集めて鳴かす。榊に勾玉と鏡と木綿と麻とは付けて、フトダマの命が御幣として捧持し、アメノウズメの命は祝詞を奏上する。

そして、アメノウズメの命は、乳房もあらわに裳（女の兵児）の紐バ陰部に垂らして、伏せた桶バ踏み鳴らしながら踊り狂うて見せらした。



その様バ見て、集まった神々が、びっくりかえって笑うたもんだけん、天照大御神は、

不審に思うて、岩屋の戸バ少しばかり開けて外バ覗^{のぞ}きなさった。

そんな時、すかさず岩屋の脇に隠れていたタジカラの神が、戸バ^こ抉じ開けて天照大御神のお手を取って、外さんお連れ出しなさった。

こがんで、世界は再び元の明るさを取り戻し、スサノオは暴行の罪に問われて追放されらしたったい。